

東京家政学院短大 ○植竹桃子

大妻女大家政 松山容子

〔目的〕肥満は、その現象として皮下脂肪の増加を伴うことが一般的に認められている。一方、10年前と比較して細身の体格となっている集団で、皮下脂肪厚に変化がない、という資料も得られている。「痩せ即ち皮下脂肪が薄い」と、単純に言い切れないことが推察される。そこで、痩せ又は普通に分類される被験者を対象として、身体の充実度と皮下脂肪厚との関連性を検討することとした。

〔方法〕被験者は、健康な満20～22歳の女子71名である。資料は、①Bモード超音波断層装置を用いて測定した身体6部位の皮下脂肪厚（臍部，腸稜部，肩甲骨下部，上腕後面部，殿部，大腿内側部），②人体計測値（身長，体重，胴囲，腰囲，下部胸囲，上腕最大囲，大腿最大囲）である。本被験者を、便宜上カウプ指数20未満の痩せ群（N=38）と、20以上25未満の普通群（N=33）とに分け、群別に分析を行った。

〔結果〕①外形の太さを表す周径と身体の充実度を表すカウプ指数との相関係数は、両群とも比較的高い。②皮下脂肪厚の絶対値は、平均値としては痩せ群の方が小さい。③皮下脂肪厚とカウプ指数との相関性は、痩せ群では低い。④皮下脂肪厚6項目における分布パターンでは、痩せ群に大きな特徴は認められない。以上のことから、特に痩せ傾向者で身体の充実度と皮下脂肪厚とは単純な関係にないと考えられる。これは「痩せでも皮下脂肪の厚い者がある」ということで、痩せ型か否かの判定を皮下脂肪厚のみによるのは危険である、という論につながるといえる。